

第28回BA運営委員会の 結果について

文部科学省 研究開発局
研究開発戦略官（核融合・原子力国際協力担当） 付

日程： 令和3年12月16日（木）

※新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、オンラインでの開催

出席者：

（日本）堀内 義規 文部科学省大臣官房審議官（研究開発局担当） ほか

（欧州）マッシモ・ガリバ 欧州委員会エネルギー総局副総局長 ほか

主な議題：

1. 3事業の進捗状況の報告

①国際核融合材料照射施設の工学実証・工学設計活動(IFMIF/EVEDA)事業

②国際核融合エネルギー研究センター（IFERC）事業

③サテライト・トカマク計画（STP）事業

2. その他（青森県及び六ヶ所村によるホストサポート状況の紹介、次回運営委員会の開催時期・場所等）

BA運営委員会では、IFMIF/EVEDA、IFERC、サテライト・トカマク計画の3事業について、事業の進展を確認するとともに、今後の作業計画等について議論。

1. 各事業の進捗

① 国際核融合材料照射施設の工学実証・工学設計活動（IFMIF/EVEDA）事業

- 新型コロナウイルス感染拡大による入国制限によりスケジュールの遅延が生じているが、欧州からの遠隔実験参加ツールを活用し、高周波四重極(RFQ)加速器の長パルスビーム試験運転(フェーズB+運転)を開始。
- IFMIF原型加速器(LIPAc)の最終組立に向けて、機器の製作が着実に進んでいることを確認。

② 国際核融合エネルギー研究センター（IFERC）事業

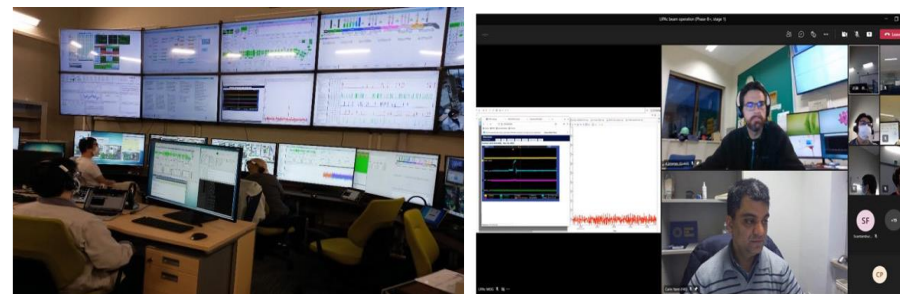
- ITER-BA連携協定の下、ITER遠隔実験センター(REC)及びシミュレーション活動を中心に研究協力が進展。
- RECの技術を活用し、ITER機構、IFMIF/EVEDA事業、STP事業の遠隔実験参加ツールの開発に貢献。

③ サテライト・トカマク計画（STP）事業（JT-60SA）

- 本年3月のEF1コイル事象の分析結果が報告されるとともに、2022年の統合試験運転再開に向けた取組が着実に進んでいることを確認。
- この過程で得られた経験と知識が、ITER、DEMO（原型炉）及びその他の核融合実験装置に貢献することを確認。

2. その他

- 六ヶ所サイトにおける欧州研究者、技術者及びその家族への高い水準の生活支援・教育支援に対する青森県及び六ヶ所村の多大な努力に感謝の意を表明。
- 次回第29回BA運営委員会は、2022年4月に日本（青森県六ヶ所村）にて開催予定。



IFMIF/EVEDA事業 遠隔実験